

霜村盛郷 シモムラモリサト 1902年9月18日-1964年10月25日 62才 没 文責：霜村守彦

| 西暦    | 和暦         | 日にち    | 年齢  | 主な出来事   |
|-------|------------|--------|-----|---|
| 1902年 | 明治35年      | 9月18日  |     | 山口県厚狭郡厚南村（現山口県宇部市）に霜村新一・マサの間に生まれる<br><small>※霜村盛郷の戸籍謄本より</small>  |
| 1914年 | 大正3年頃      |        | 12才 | 小学校高等部卒<br>宇部興産に給仕として就職<br>後に昼間は喫茶店でアルバイトをしながら夜間学校に通う<br>この頃より英文学に興味を持つ<br><small>※長女玲子の回想メモより</small>                        |
| 1920年 | 大正9年頃      |        | 18才 | 詩の創作始める<br><small>※谷間の泉あとがきより</small>   |
| 不明    |            |        |     | 進学のため大阪に出てくる<br>大阪市港区の富浦家に下宿（生涯の伴侶・富浦千代子と出会う）<br><small>※長女玲子回想メモより</small>   |
| 1923年 | 大正12年      | 4月     | 21才 | 関西大学 専門部入学<br><small>*出典：関西大学学報 1974年7月15日発行三島律夫氏の畏友森川太郎君を語る その4（昭和12年とあるが誤植と思われる。）</small>                                   |
| 1923年 | 大正12年      |        | 21才 | 桂子（けいこ）生まれる...一年経たずに逝去<br><small>※長女玲子回想メモより</small>  |
| 1923年 | 大正12年      | 11月    | 21才 | 煙 創刊号 創作 犠牲 発表<br>煙 第二号 創作 馬 発表<br>煙 第三号 水死人 発表<br>同人雑誌 大地第二号に 番人 発表<br><small>※谷間の泉あとがきより</small>                            |
| 1924年 | 大正13年      |        | 22才 | 大阪今日新聞懸賞短編 亡き父 2等当選<br><small>※谷間の泉あとがきより</small>   |
| 1926年 | 大正15年・昭和元年 | 5月1日   | 23才 | 関西大学学報局 入局 61号～71号まで編集作業に携わる<br><small>※関西大学学報231号 1950年5月15日 本人が寄稿</small>   |
| 1926年 | 大正15年・昭和元年 | 不明     | 23才 | サンデー毎日 泣いている弟（短編）<br>サンデー毎日 長州辯考（随筆）<br><small>※谷間の泉あとがきより</small>  |
| 1928年 | 昭和3年       | 4月14日  | 25才 | 玲子（れいこ）生まれる<br><small>※長女玲子回想メモより</small>   |
| 1929年 | 昭和4年       | 3月10日  | 26才 | 関西大学 専門部商業学科卒...旧制専門学校・大学入学資格は無い<br><small>※霜村盛郷の九州帝国大学修学簿より</small>  |
| 1929年 | 昭和4年       | 4月8日   | 26才 | 九州帝国大学法文学部入学...文部検定合格による<br><small>※霜村盛郷の九州帝国大学修学簿と長女玲子の回想メモによる</small>   |
| 1929年 | 昭和4年       | 7月10日  | 26才 | 詩集 谷間の泉 出版  |
| 1932年 | 昭和7年       | 3月     | 29才 | 九州帝国大学法文学部卒業<br>英文学専攻・卒業論文は英文学者ジェーン・オースティンについて<br>在学中福岡女学院にて英語教員を務めながら大学に通っていた<br><small>※霜村盛郷の九州帝国大学修学簿と長女玲子の回想メモによる</small> |
| 不明    |            |        |     | 三栄刷子工業株式会社 取締役社長就任 セルロイド製品や歯ブラシ製造販売<br><small>※玲子回想メモより</small>   |
| 1964年 | 昭和39年      | 10月25日 | 62才 | 大阪府東大阪市にて逝去   |

#### 補足

盛郷・千代子の間には桂子（生後間もなく亡くなる）・玲子・貞子・縫子・榮一・和子の六名の子を授かった。

盛郷の祖父は友之進（谷間の泉 の冒頭に登場）

長女・玲子の回想メモと聞き取りによるエピソード（補足）

- No.1 夜間学校通う傍ら喫茶店でアルバイトをしてたらしい。  
自分でカレー粉からカレーライスを作るがコックさん並みだった。
- No.2 山口から大阪に来た時、富浦家の2階に下宿する  
富浦千代子（梅花女子卒）と結婚する  
茶谷産業・茶谷氏/小倉兄弟とその時期に知り合う
- No.3 小倉氏と共同で会社を作り社長となる（英語力を乞われて）三榮刷子工業株式会社 取締役社長  
主にセルロイドを用いた製品・カチューシャや腕輪・ブローチ等をアメリカに輸出していた  
※歯ブラシの柄はセルロイド製品
- No.4 湖水地方の詩人ワーズワースに学生時代は敬愛し心酔していた  
ジェーンオースティン  
シェークスピアを特に好んだ
- No.5 九州大学在学時・教員をしていた福岡女学院では外国人宣教師（英国人）がおり  
直接生の英国英会話を学ぶ機会に恵まれた  
九州大学に通っているとき、千代子・玲子家族は山口の宇部の実家に身を寄せていた。
- No.6 長州出身の財界人・藤田伝三郎（男爵）に英国より来客があれば乞われて通訳を務めていたこともある。  
→藤田伝三郎は見込みのある学生の支援・人材育成を積極的に行っていた

霜村盛郷の近影



※玲子の結婚式祝いの席にて